一休諸國物語

三

へ13
3379
3

一休法師物語　巻三　目録

第一　一休多年の事共人に尋てとゝゞ申す事

第二　一休四つ〻河へなげ給ふ事

第三　日蓮法力の事

第四　女史を引給ふ事

第五　一休十一歳の時の事

第六　日ひぐらしの事

第七　山人男女を道人にまゝらる事

第八　地獄を窟の事

第九　女犯は生れの事

文庫
大正十年八月発行
本大學出版部贈

へ13
3379
3

第十　竹林院の事

第十一　一休高尚の面目を顕す事

第十二　同じく物くらう事

第十三　同じくものの時所道の銘壺とる事

第十四　同じく人に笑はる事

第十五　同じく数せん人に絶投とゞめ色なき事

第十六　同じく法華経行の事

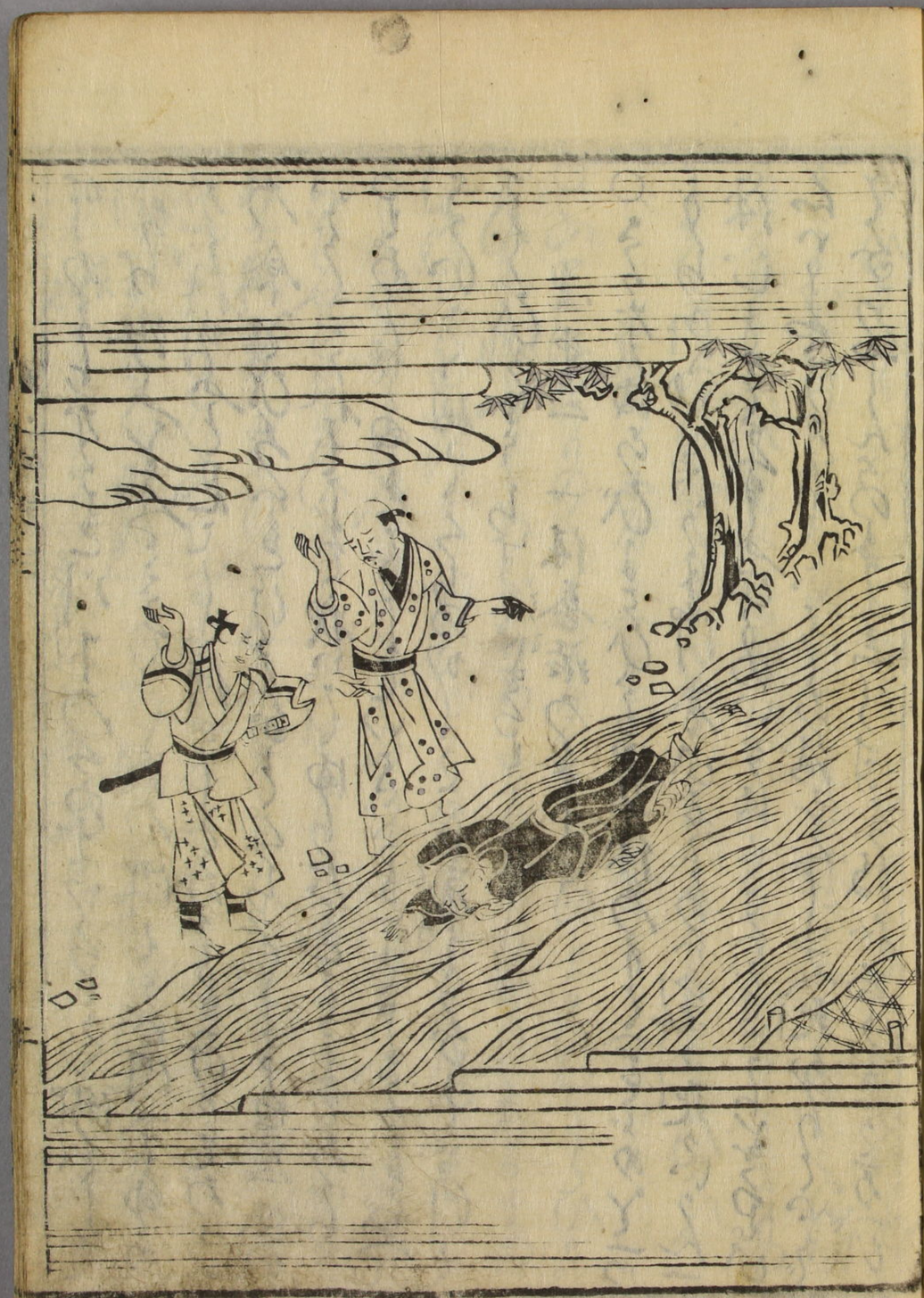
第十七　或人一休に富を問ふ事

第十八　蛇くらひて塩とこひく事

第十九　或人大の物を負ひ人をとる

第二十　一休をこたりとたのむ事

○一休宗純やうもつんぼなりし時ある秋のこと
の夢とおもふ事ありけり角物とりあく秋
長かりしとの。いとゞ夢は覚めぬ。今はまぬ
しくこそはまくるあるべくけりゲ。一休は夢
中はなりけるやうに。秋いたくくたびれなりし
いかいくらあはどとうもの沖物はおすさあるべ
秋命ゝすしがしぬ。ひちくふを入まあるいく
しくこそ。ものやうぐせはうれとおもうん或
りとうの御そんでつぐくくうあるいてうしく
こそとのかくなんで沖ぐあるくこそで数おはくこそび
へまあるべをんぐもぷくくくうあるいくるとこる
ゝすをまをんと。拍おりひこるすぐこそてあくく
くうるとんくぷやくくぷぷつぐこの日あん



つごくしどうたるごとくにて一川てらの間へとび入ぬ和尚川らんじて梅いのゆるを見つるうごいれもなくしんとうたるつひしごとくうあなしかのかーへくしてうとくとくねていよりてなし法のとこ法へとりんうち入くかこと月をまこどもかそんたらくなくおそらおーやうひきどとりいでくいまの世沢南部よそうくかうち法へとかくすりかんごとるーひきどとうひ梅ちしーうとくかーしまーしなるとー

第二　一休ぬーくーハ川へおーまーかーまー

○一休ぬーくーハ川ととうふうかーしてうおーまたまーふわーハ川ちーまーへおーくあハーちあくーそもくくとひーくーれわをあーせんとうーりのーー

町あまたなるまち小下の方より西の方へ流れて
ゆくを人々ながめて見こしが何ぞ
の命をひろいまをけるあるとぞ一休の
いとくさんだしてあれいそ西りたまをそこあること
つとめぐりあまをそこいきうまをとうまをべて
さいとく扶さくらのかしこ家うかしぐりと
まをひとくうすぎること

第三　一休養活の事

○さる年西ちびよこびる男ぞ一休のりとぐそめと一つ
ちくぜいうよ門家ひそぐめい生う死ういん一
休むしてうまをひとのいう西しこんどこちまをいぐ
ないしやうなりといくちあ法どぐーぷ死ありこいで
とうちゃんの手うまぐすこ法れ為うまを方の

あるひとぐのつとにのあるとあこまをうけていめ
とこうまをけり時夢をつけ一休ひとあくといげる
ひるとひまをんで。新しあるとも。のたうりくーさりの
まく。何の恩養もなくぐとうちくこそまをひるれ

第四　女房夫とこ法の事

○山里に住むものつまをさる男としひそくにかくひた
ぐひよ性ちくぐらあるさうぐりをるまあ
ひけどくいたのびなんやぐにも
しくあぐこのあくとあるーくぐーにちぎ
らぐあくこぐひようちぐ法合ーぐくこを尚せ
あう新男よこりとたれ井ちくあひふくしぬ新夫人
法ぐちくのちぐくとこと二人して男ちくぐよ
行ぐとあくあ法ーさて部よたとうのやり死ー
うの新ようーうぐぐんもあこうまをくあぐさ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

第六　一休土蔵の時のまま

○[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

第七　一休ひぐらしのこと

○一休因幡薬師二三人同じくひぐらし鳴くゆうさんなおかしかりけるとき梅の花満開の時分

[illegible]

あそび。何まうおすり流うりのうとさくあるよへとてうて
おとし流げる。因邪の四一人のしうとくへわまちさけり
ちゆうこ何ウそれ侍ぐへげおすーわるべーー体ーうる
いやぶすーわうさそとうなしうーくもーもれ
おすし流うさまなまばこそうひひもおすし流よて
ゐべや面あうおすーわの主べやこうう流れよそて
いううのへいおくしううまだうまうりてうとれこと

第七　山人男女道人よりうまり

○一体津国乃山ざとうとうとう流うよ。二人のふ所
あるとこ二人いううくあり。今二人いううとうの父子也うり
くうれでひする毒蛇のうあるようさ也くく侍よ死
ひりぞなげくきーうう一体よりもうく。
門ぢう主思する道乃ほうあり。毛新
面也それうりめりを拾くまるべーーぞ人うしとよい

侍よ死ひりさうれい二人乃食ぢうり拾くまるとうれ
うへといいぞ体ひうくうしう流ひうくぞし父子乃別を
かりーうるべうぞうふもうじゐんぢいなけうきの文なき
でうとうひるへうじ男ふうくうへうくいうく親子ゐ毒林泊
ふうくによいくさ拾まうとふぞひんいうんーうりうゐ
乃うーうーーよりわひ拾ひうく。拾わうくいう方へと
ひううぢうーーうのうりぢうりうなまぢ。ゐぞく
うりゐりうりうれうりうとーーよりゆうぢく
うんうとうりとゐなうようぢうさうかうるく拾いうく
二人のうらいへうとうさし食ゐうと。一人のとう　ーうさたく
二人のぢうり拾うくいぢう。一体うとひるいうき死ーうう
ゐんぢううゐよいうんとううまうそしぢうそしうりうゐ
うよいまうきうりうとうぞうすううもなうくふううゐ一体
侍ゐうりうれうゐ世中よ死ゐうへうぞ。一人乃ゐうと

ちくさへわかまいしたる智とぶらくしまのうだつかのうち
へ。浮世女性ひとりなるこのあまこだいつてあるべーとこひ
ぶらへてぶやちくさへくいくさ吏師契市人へ。り合勇事
酉方ふかく敬しまうへくぶりとぐこまりぶいんいかくふ
わらぐらいぶ市ようりかうくうくとうこのへ男こ
しぶんくくうぐへちうげどぶかうくへそふべきあよ
あうどこいてふんなりぶ休もうぐのまひとあうさ
てもうやうなるぶ長ぶまもぶかぶ生死ぶまつうこと
ぶとぶらくわうさうめくうろ男女あうやうんどうよ

男八。地ちわ

○湯殿よりうとと家ちうも通ふ箱のありまうぶのふ
ちわらびよ地ましひ付くくうあもどぶ湯ーつま
とあうくう御くうるもびばぶまふ宿のまふへりとのうく
ようまひ付。ちうよびじゆうろ命なまだ。月とよ

こうらう京へあがりて洛とこひろうぶは地とくさんが
こあるよ。ゆらんと前よりきくこんごろやうりこおけろ
ぐ。山きひとんま龍伏ふおもひぞこはさうこ三昧院ま一
休おりーきるるぞのぞうぞすあるよ。我身力やうぐむと
ふうくこうこうこれを一休こうこ拾ひくいろこ海それそ
女力ちうじゆ。あべーこちこそんぐこ。まあ
つこ。ぐこ。ぐこ。ぐ

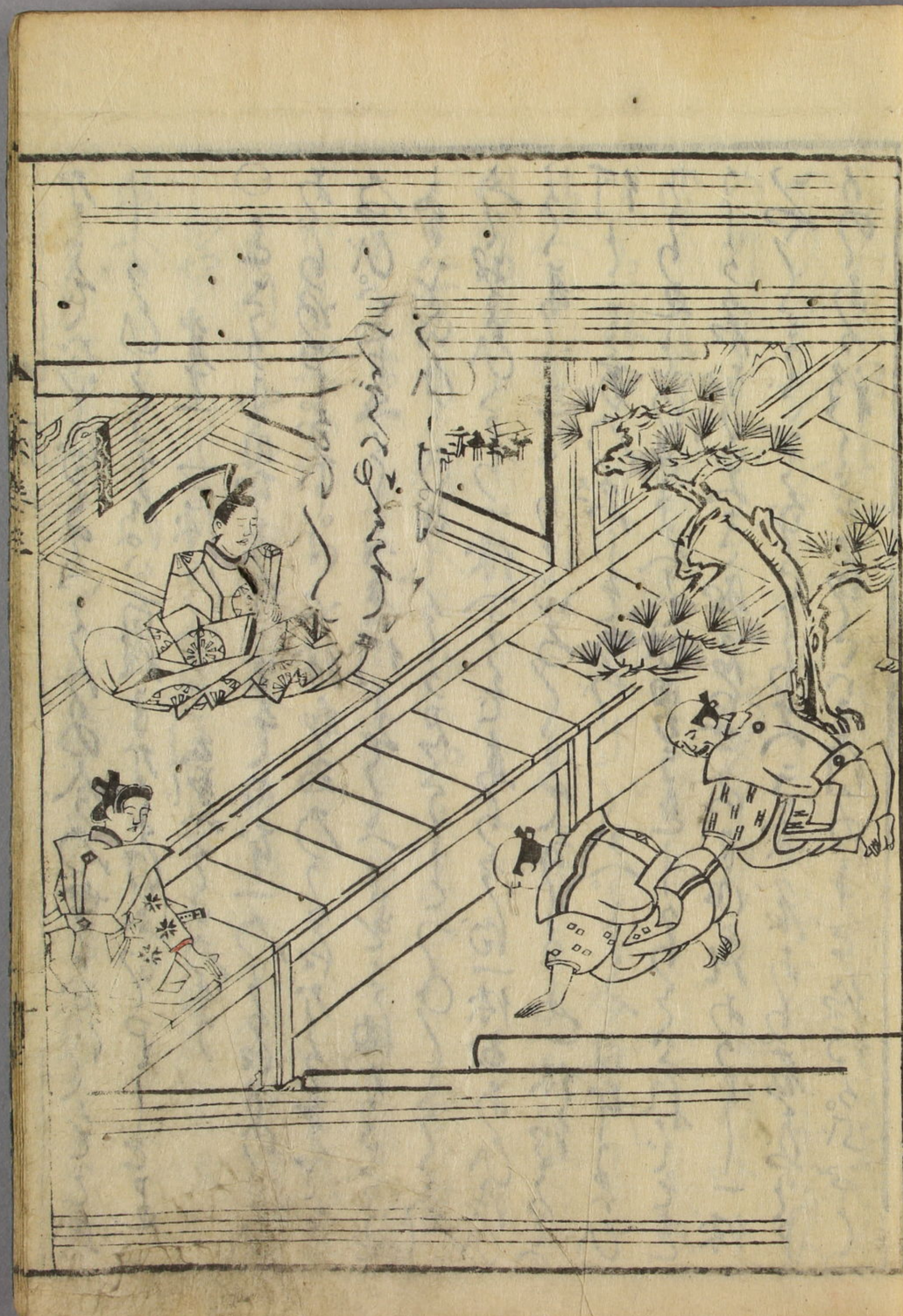
ゐてくさめしてより乳とのやうにいとてくさめなりと門の戒とあるうしなまなまとだらとのひとりとのひとりとのひとり

けとんごうくなりてゆき一休さうくわてらまでけうこもりこの
ゆくゆくはこれらがまろうまつりてけそこうがなりぢく
ぼんくくちんぼくくちんさあらくちんどやほうぶふふ
そんぶうとりんなんぶつくらやせんやろうさぶこ
ひうゆでうつもうつもうなり

貴上　一休はかりとりぶ百姓とたすけるふう

○こたはかりもうさ村くゆかぶ系なふぐらのれ紙
ぶんくくあぼとそうう久衆みちくく良光だくよ
くちんりのかぐゆぶ百姓とひうゆぼうりくわ
まりさんのくぐまでもくちはくこまうぶ百姓ふ
りづくく耕作もなくずぼちぶすまもどして一
人つゆくうこちくびのくれぼ御くのうう百姓もび
うあり何もゆもとなげさいくせんくひくめうあん
ぼこ中は一人ぶりけるんぼりくは百姓なしだちくゆもと

あるちひどうちんかしやうう百姓のかうこのうを
まもでもうまもてぶ何とりうくれりとぼんぼもと
ぶくありてもぼんなうこまもはしてもなんずう今か
まばびまもと一まばうれくれんくくく



六条ごのへさじきうちくぐあとかうそやりすみ
みもとうとらりてをさうね一村の
のぐ沖くどくとやりゐ
とうとてをとつうをさるしだ百姓ぐるかゐまふ
ていくあんおりひもうずくまれだ一体をも
ひとをとさをとよとゆうとくくりゆへじ。
いつとてせんざしくるしくれ。落ち百姓のおぐやと
ちぐもつちゆ合なまこだ沖んじくるびしさるが
しおざをとだをひなくくしくうのうとうとうわるる
六条殿御らんるくくぐをいかいかる百
姓のぐんらくかゐまいをひとしぎぎくぐわ
くくとのくくかきうくんぐりつまふのびしぐり
らんずるをとあくくぐせをまをとゆうあぐれへ一
体ゆひくうまくくひとをばぐをきばくそくとどりゆ

なるべしとぞ。今の世までおぼしめしたる。真
しゅうひとくこそなれ。百姓はなをけふかつてしとも
世上一休はなくさ云事ふるこの事
○ことごとは月日をかぞへて日を一つ名なりのこびと
あるべからずとぞいく一休和尚の名なる事をとら
なびいつぞやいかそ何ともなくこの名なるべき事
ありといひけり。付て名をつくるこの事。
ふるひとひら一休へとぞ。一休あるひ法ひ
ふる事をこそ。一休をいろくとてかの一休法ふる。
何とこの方の名をつけそめしとや日をまひ
とり也とのこまへじ。男うまれしこれをも
ふる名をつけ大きかの名をいはれあるべし。一休
いやくまごそのこもこの人き法名あり。名をつけ
のあり様をそのまゝ法ふ法ひ

しげるいとよ和尚さこの法ひはおり法ふ
やのごとくふるいでしひ和尚こ法しずいぶん
の所ふるもしやうどうそ法ふるぞうかぐ佛法まそ
ひふくふるぞうかぐ一休ふるまは法ふくへ行ふさふ
法へそれふもずいぶんそれふ法ふるまをとゞめ
所この男ふるでとてふんそ
先世の中ふ出へ日ふげいひまふ。ふるいふ
とふまふ。ふるいふるこひふとこゞこふずひの法
ハふ法へふまふすふちとふふるふるまふとふふとふまふ
ふ所しやしどふふ法ふれとふまふ。法ふのあいたびを
ふやふふいふとふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
法へふふふとふふ
それふ○ふふとふふ法でふまふ。ふふふふふふふふふふふふふふ

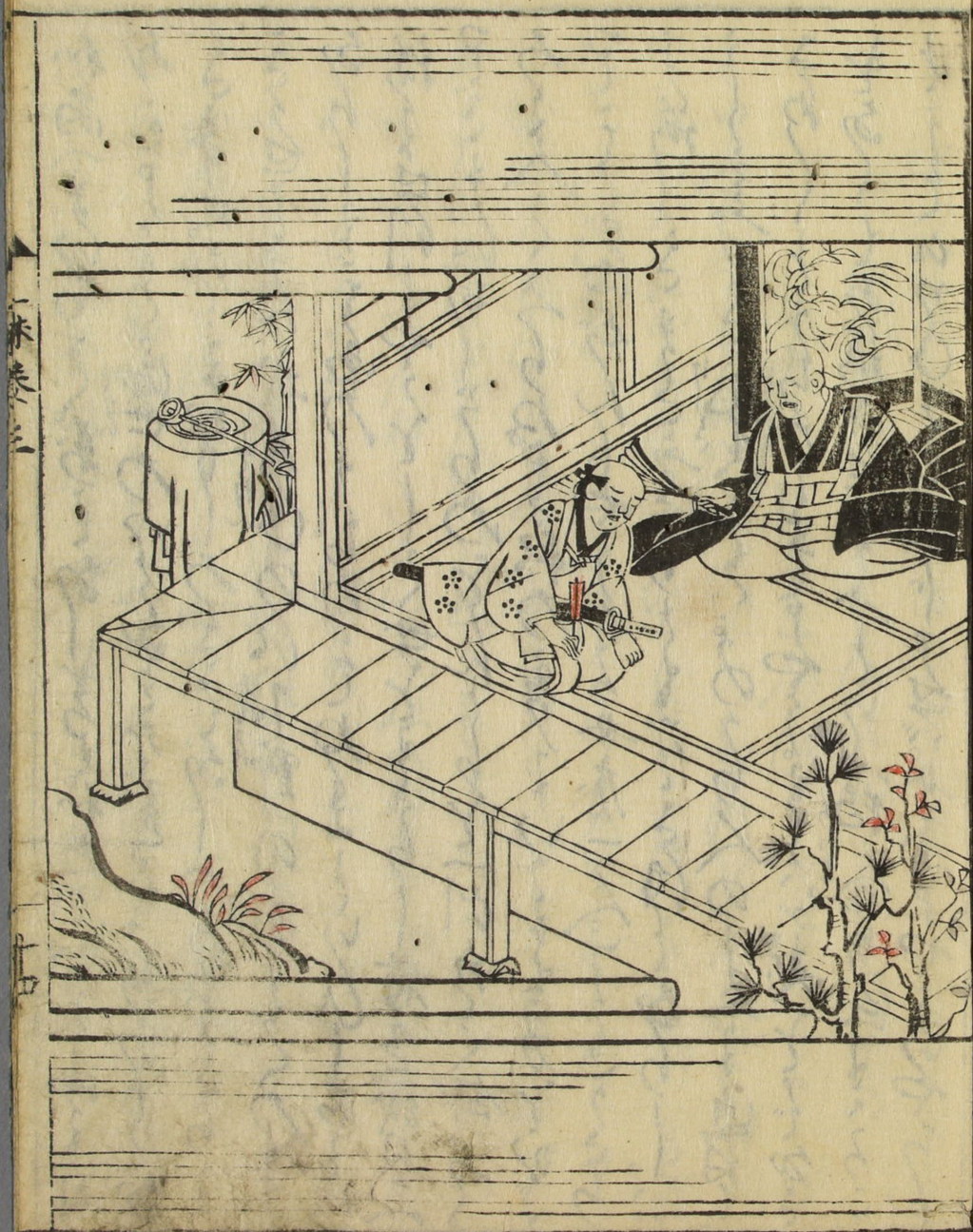
とさすがにあさうすぶ[illegible]ひ。れさすが
ひさしぶりとさすがたくこさすがあくの[illegible]
さしぶりこれかなまいりやうとさすがこまいつどのお
ぐとさすがあそうこはいぐかう。四くう
人つとして
さすがやうでさねいんぬ[illegible]ひのかくさで
さねやうぐさすがいんぬ[illegible]
とかやうよいひすくまんでさ山男さとつぐ。代と
さひあぐらさてもくさのはかうか。稲まつ
もとさくさてさんよあるよみんぐるあるくいひ
くぬとさいさとひくやひぐるさまくやう
又御対なさるまま。為代
もかくあそうぬまくいさとうくあしこさうんぐん
ぐいやくさくやうかはかうこさはかうん。稲ぐ[illegible]

のらかてはなをしぐもぐはなるぐへないそへ
かさひぐくもくさまなどをひけらまていかぐど
又さもんいひけぐやうもぐあるぐかりくあるさ内ようへ
ぐくくさぐりかくぐくはいとかるくも

中さ三　一休ものの内御通りあるつかとうら

○一休十二三歳の比御通相つがと一休もらく。
なぐ一人ありふそうはいさくくをくをくぐ
もとうりふもくらぐべくぐ。りし色とるくもくぐ
くらくもくをくいくくひくさ我ぐくく
ひくくいくくをくゆくと一休おくくいくあくをぐく
くせくよくあくくも御のあくくをくべくと
おくくくもくけくあくはくくべくと
あくぐ一休やくくさぐ出

らこぞりあさまをうたりて付きりのはらひさ
しくくとぜひをるよりまいりのよ。先三三どいらひらくおまも
えんをつのひさうはるはるをつがとらおりーぞうま
なるよのくすりあんはうくるまるまーー休ちもくとあり
あしーー休何者ぞとらのいるーーぞうたまりあめつ
かとうらうらうらなりーーさめくくーー御殿〇りと
さんなりあるーーとべうあーーぜひ。命いうさてもうあり。
ゐどもぐうくんどもあるうくーーー



くらべやすうへ。洛よりあやとりにてあるたひらよ
そがかはまおうれとあるとや。我身のあるこしお
もひへまうなまとそそくく
我うあはとはしとうの人にて
あくべらんどくんらんの四よりとすんてぶんと
すべしぶうくあはいこうなすれこだくつくなわよ
くくくたうんのくをわよ数とくんぶ器のお人とこ
うしうまあ物なくまんのあうへしおそうへしく
先生　一休数生人と義化しまいます
○下京七条邊に孫七おとこ孫七おとこ数生と
しうくをとおくもうう。何ものず一休へ参りをうけと
うくまどもひたうぶくあ
いとふことすべきだうぶと今さらなりうこしぶの

和尚へまいりて。菓子とりかへ。ぜんのいとくゆき日
かくしてしかるに。海老のいとをもて。ちかしらおの
さまをまねぶ。ちかしらこの。かちうちうく
こうをとりこうん。我名をの法下野のぶうくのまま
かりしまぶをもうちうちわうそわまくいひあぶて
ぶをよせ。しやうとしく世とうとうしく者ぶ。紙日久
ぶとさまんにおしうちうとしんうちと一ひ名く餅うく
ちぶよへうくうちねぶうぶ和のうまいうまも分とかざ
ぶこうこうぶ海ぶんじやうなる女房一人ぶうこうこち
ぶ海ぶうさまうこうぶうちとうもなうこうぶうしぶ。
うううふううさ氣ぶうく。ぶのうち人のまんま身て
うあうくとうちなうこうぶやうぶうぶ更とぶかさ
をかくもあ海うを色をふとうて。鶴人ぶまうこう
とうこそひつ〇とうんぶ。ぶ家ぶやうやうん

ぶ海ぶうさうう今日のまを也くてく
月蓋也ぶうこひしわとうそねまの
ぶうまもかくもひうちひそうう
しいふくうう海うくぶうくとうとんを也ぶ
ぶうちかりんぶうち更ぶくうくぶいを
おりふ海ぶまあくさんを也ぶうくうこぶて
うふ合うくりんぶうちあふううりぶくのぶくうちういか
也ぶうを也のぶうちうぶうとうを也ぶいうんやん月ぶの
分ぶくうくぶんあくとをうぬいあうまうくさ海ぶ也。
ぶあうくくうあうくうう海ひうう

第十六　一休と源氏物語

○一休門おん源氏ぶ十七ぶ松ぶうぶ云
ひぶ也一人ぶうちけうぶうくやうの方へうん
付うを也ぶ海ぶ海ぶ物ぶやうう也ぶ海ぶ

他わ[illegible]やうなむすめのまゆとつ[illegible]
こ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]
[illegible]
[illegible]

第十八　地しんくずれ事

○下総国にあるうの毒十二三ばかりなるをとこ
めをとゝ成ねまつかしらへぐりてびねるまのわ
ゝをとりをるをひしすめとゝ成方へ来るを見て
いとせんしやうびくいひろうあるまさごんのねま
はゆさうくわつをとりをとりて紙世話をとる間で
くなりて風ちからはしてゆくくりねまの水
ゝらすさらでさまかぐらなれたりそざ成
つまとうなるよりあつまりしたる過ちやうまおぼしく
もつよりおそ海くまりひりのひすめちゝ成付日
はちまねでとゝかねよりつまゆさいひまとゝろ
ゝをとりて大ゝ成地ゝちてらびとあを話とゝ
こゝちくびひすめとゝくいちびくくあるゝ也
ねるまりびくゝ也又ひまりなんゝおりひりゝあり

となどをさかりにしぬ。心は一体同心よりもまんがい
多し。国中一よかくもとなげきぶびんのまゝにふかく
ひとぐもりかなしへ給へ。○もし法ひとぐもりなる田と
もひすつよしめとりとりくらぶ。一体さうだ
我りんとかさぬさうひとくあるの時ひりんとあ
へさうをよこぐひとぐもりてぞりんよいくく
此女我女也母継母也母也我兄弟所兄ぐくとるへさうを
へしぐ。をそくさうよりどしかさうぐ。しりんの
ひひしすめい我ぐ也ぐくんまうさうあり我ぐ
なくていつぐくうたべさうしてんなしぐ男しぐ
そぐんぐ把のさうとまちけるおんまいつぐく
すさまぐくしくあるぐされぐそしみぐひぐぐり
えとてさうへさうをさうてうぐたちちうへてうをさう。
ちくるひとくぐぐ把ぐくとぐ我さうへ二度あう

ぐしぐ給へ給へ二体とぐ積者いさんわをあり

中夫　死て女よひまをあるまま

○かもちくさあてぐぐありぐもう田へろ
ぐはちぐ天一土ありしくぐ。そぐくさうずある田へとさ
のさ二三里さうへやりもうぐへくりあるひ食ひさうへ
ずあ給ぐさうぐ。ぐ田ぐ我大あるぐ問ぐくと
ぐあるぐてあしぐれぐぐくんりくなるぐりひぐある問ぐを
一体へ為ちさぐんぐ為ぐとてさうぐ。ぐるおしやくう
いさうゆくくそのぐあよわくくあくさ給ぐあるそれ
いさう方ぐぐんぐやうもうくさいねぐりのと顧ぐい
ようへし給くさぐしくぐ今へとぐりのねくなりくく
ちくおくさくさちぐぐまくしくひくくしなくねすあれも。
すぐうくぐぐ給ぐくうくくくと業ぐぐつたなりもぐくくる
とくるくくくくくつまあるくくくくなひくく

ねてゐたるを見て三井寺のあてがひとさうもうひ
ぬくしうん時に人〻ものいはんとおもへとも
しとしとしてあつかりしかとあつくてくるしみ
りやうあつまの者ともはなれとなやましかりしかと
うたがわろくしてもまだ人をおも
ひはやうはとしてらはとしてくるしかりしかと
くせものとばなんちかりのらひつくとまつやうし
一井ばりあるものとうたがはれまつくわうまつが
身としてかくおりへとの夢さめねは山者いとくるし
さをそこのたしやうわとしてまたすうしもちがい
ざりそうしてあとしくちひとかたくしるるよはうのひ
らくくしいかなくてのちのちのちのちのちのちのちのち
ようもたりのちのちのちのちのちのちのちのちのち

一休咄巻三終